

「令和4年度多治見市資金運用実績」の公表について（報告）

1. はじめに

会計管理者は、毎年度の歳計現金、歳入歳出外現金及び基金積立金の保管と運用を行っており、「多治見市資金管理運用方針」に基づき令和4年度の運用実績を公表するもの。

2. 歳計現金・歳計外現金の管理運用実績

会計管理者が管理する現金は、日々の支払いに充てる「歳計現金」と市県民税や職員の所得税、保険料などを一時的に預かっている「歳計外現金」がある。

通常は決済性預金で保管をしているが、すぐに支払いを行わない資金については1年未満の定期預金で運用を行っている。

令和4年度の運用実績は以下のとおりである。

表1 歳計現金及び歳計外現金の保管、運用実績

区分		現金残高	決済性預金(注1)	定期預金
平均月末残高	R2	5,873,016千円	3,998,016千円	1,875,000千円
	R3	5,629,487千円	3,754,487千円	1,875,000千円
	R4	5,835,987千円	4,585,987千円	1,250,000千円
年間利子額	R2	2,530千円	—	2,530千円
	R3	751千円	—	751千円
	R4	503千円	—	503千円
平均年間利率	R2	0.043%	—	0.135%
	R3	0.013%	—	0.040%
	R4	0.009%	—	0.040%

※(注1) 決済性預金は、全額保全される代わりに利子が付かない預金(基金も同様)

3. 基金の管理運用実績

本市では、現在34の基金を設置しており、これらの基金の現在高は、281億円程となっている。

基金の現金は決済性預金で保管を行い、当面基金を取り崩す予定のない部分については、定期預金及び債券(国債・地方債・政府保証債)で運用を行っている。

令和4年度中の運用実績は、以下のとおりである。

表2 基金の保管、運用実績

区分		基金全体	決済性預金	定期預金	債券
平均月末残高	R2	25,582,042千円	3,742,058千円	18,095,327千円	3,744,657千円
	R3	25,834,741千円	4,357,299千円	17,658,229千円	3,819,213千円
	R4	27,063,011千円	6,016,656千円	17,191,523千円	3,854,834千円
年間利子額	R2	48,767千円	—	25,528千円	23,239千円
	R3	47,837千円	—	23,858千円	23,979千円
	R4	40,291千円	—	15,673千円	24,618千円
平均年間利率	R2	0.191%	—	0.141%	0.621%
	R3	0.185%	—	0.135%	0.628%
	R4	0.149%	—	0.091%	0.639%

4. まとめ

- 歳計現金及び歳計外現金については、引き続き基金の繰替運用を活用しながら定期預金の預入金額の確保に努めてきている。預金利率が低い中でも効率的な運用に努めたが、年間利子額は対前年度24万8千円(▲33%)の減少となった。
- 基金については、平均月末残高は270億6,301万円の前年度から12億2,827万円の増加(+4.75%)となったが、年間利子額は4,029万円と対前年度755万円の減少(▲15.8%)となった。
日本銀行の金融緩和政策等が継続され定期預金の利率も極めて低く、定期預金の利子額は対前年度818万円の減少(▲34.3%)となった。
- 継続される金融緩和政策等により、運用益の確保がたいへん厳しい状況が続くものと見込まれる中で、定期預金の運用はもとより債券の効率的な運用も含めて、資金管理運用方針にのっとり、今後も確実かつ有利な資金運用に向けた検討と実践に努めていく。
- 日本銀行のマイナス金利政策等の解除も近い将来見込まれてはいるものの、地方銀行をはじめとした金融機関の経営合理化も著しく、これまで無料であったサービスが取扱手数料等として有料になってきているため、支払い事務の工夫が必要不可欠となっている。